

提言 2

注意したあと、子どもの気持ちを確認しましょう。

・・・態度だけでなく、「納得」していますか？

〈調査からわかったこと〉

あなたが注意をしたり意見をしたりしたときに、子どもはどのような態度をとることが多いでしょうか。素直に返事をしていますか、黙ってしまいますか、それとも言い返しますか？

調査では、生活の仕方について注意や意見をされることがあるか、またそれらに対して納得しているかどうか、さらにどのような態度をとるかをとらずねました。その結果、家族から注意や意見をされたときに、「その通りだと思ふことが多い」と回答した子は、小学校5年生では約7割、中学校2年生では約5割、高校2年生では約6割と半数を超えており、「納得いかないことが多い」子を上回っていました。

これらのことについて詳しく見てみると、注意や意見をされることがよくある子は納得せず、言い返すことが多く、注意や意見をされることがあまりない子は、納得し、素直に返事をする傾向があります。

また、注目すべきこととして、家族から注意や意見をされたときに納得するかどうかと、そのときにとる態度は必ずしも一致しないということがわかりました。具体的には、家族からの注意や意見に納得している子でも言い返していたり、無視をしていたりする場合があることと、納得していない子でも素直に返事をしている場合があるということです。特に、小学校5年生では、「黙ってしまうことが多い」と回答した児童が、注意や意見を「その通りだと思ふことが多い」、「納得いかないことが多い」ともにほぼ同じ割合でした。

《私たち大人ができること》

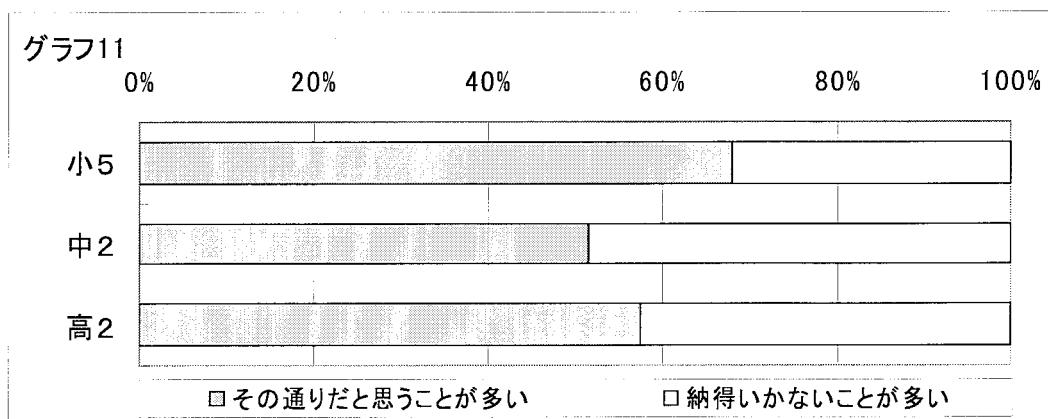
子どもに注意や意見をしたときの態度から納得できていない様子を感じたときは、少し間をおいてから改めて話をするのが大切ではないでしょうか。そのときは、お互いに感情的になっていることが多いものですが、「さっきのことだけど・・・。」などと話すきっかけをつくり、子どもの言い分を聞いたり理由を説明したりすることで、深い話し合いができるのです。

「急がば回れ」ということわざがあるように、感情的な行き違いがあるときこそ、一呼吸おいてから丁寧なフォローをしておく、注意する回数も減ってくるのではないのでしょうか。

態度だけでなく、「納得」していますか？

【データ】

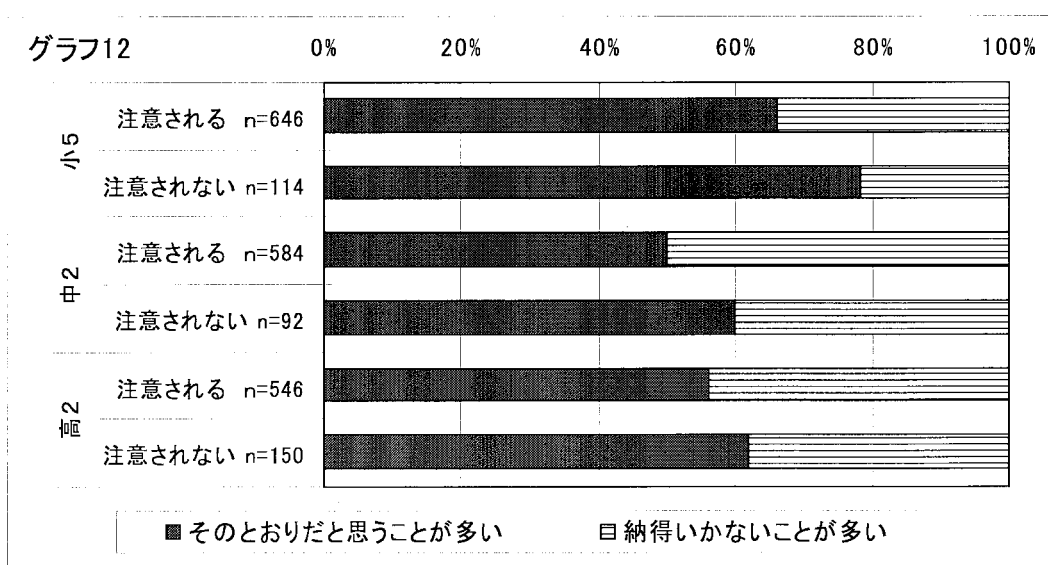
- 1 家族から注意されたり意見をされたりしたときに、「その通りだと思うことが多い」と回答した子は、小学校5年生では約7割、中学校2年生では約5割、高校2年生では約6割と半数を超えており、「納得いかないことが多い」子を上回っています(グラフ11)。



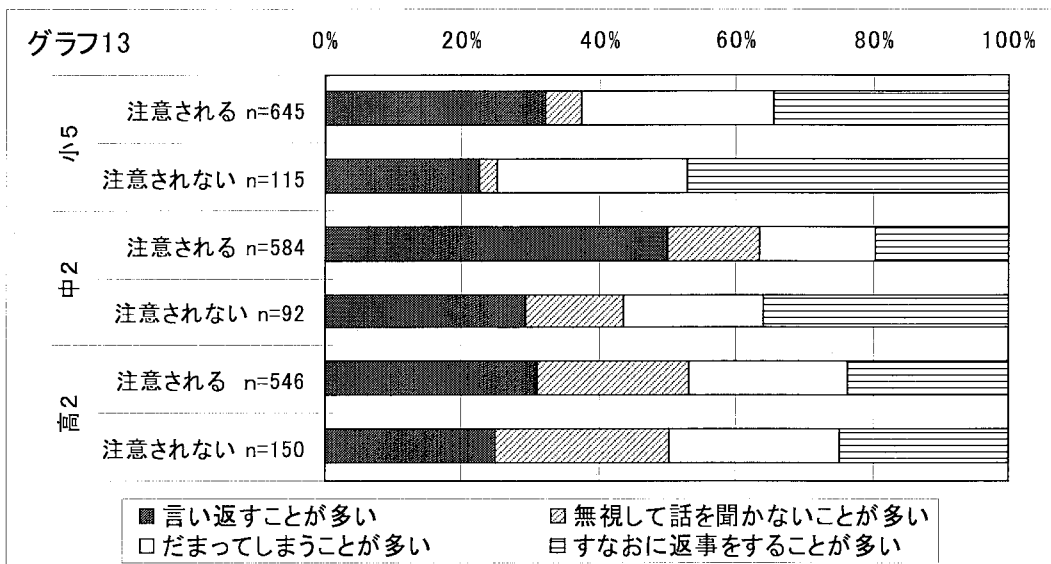
グラフ11:「家族から注意されたり意見をされたりしたとき、どう感じるか」の単純集計結果

- 2 家族から注意されたり意見をされたりすることが多い子は、注意に納得せず言い返すことが多く、少ない子は、納得し素直に返事をする傾向があります。ただし、高校2年生では、納得していてもしていなくても反応の現れる頻度はほぼ同じで、納得することとそのときの態度には、あまり関連が見られません(グラフ12,13)。

※ 家族からの注意への回答は、「注意される」群(よくある+ときどきある)と、「注意されない」群(ほとんどない+全くない)に類型化した。



グラフ12:「家族から注意や意見をされることがあるか」と「家族からの注意や意見にどう感じるか」のクロス集計結果

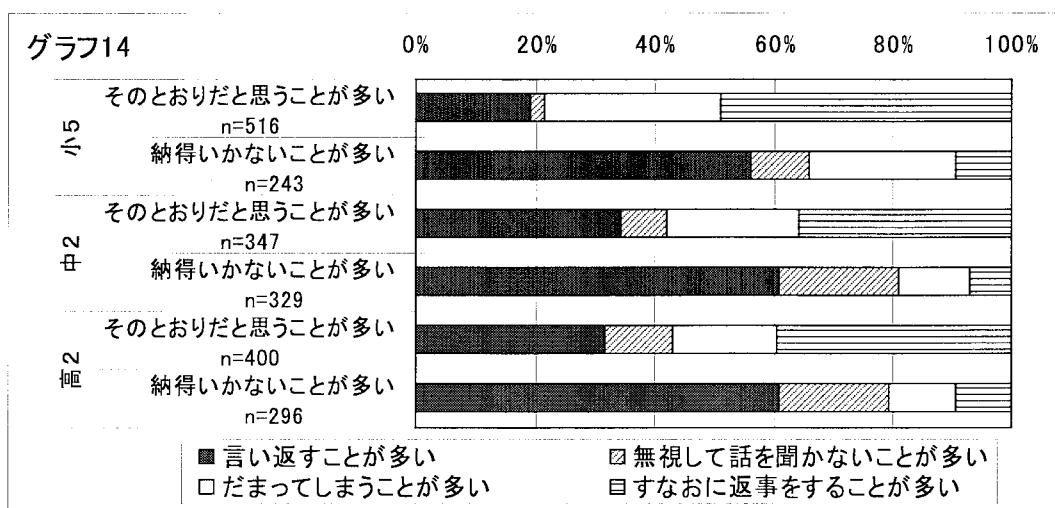


グラフ 13：「家族から注意や意見をされることがあるか」と「家族からの注意や意見にどのような態度をとるか」とのクロス集計結果

3 家族から注意されたり意見をされたりしたときに、「そのとおりだと思うことが多い」と答えたにもかかわらず、「言い返すことが多い」と回答した子が、小5で約2割、中2、高2では3割以上います。また、「無視して話を聞かないことが多い」は、中2、高2で約1割います。

反対に、「納得いかないことが多い」と答えたにもかかわらず、「素直に返事をする人が多い」と回答した子がどの学年も約1割います。

さらに、小学校5年生では、「黙ってしまうことが多い」との回答が、納得している場合と納得していない場合のどちらもほぼ同じ割合で出現していることがわかります（グラフ14）。



グラフ 14：「家族からの注意や意見にどう感じるか」と「家族からの注意や意見にどのような態度をとるか」とのクロス集計結果

